

私 の 工 夫

確かに読み取り、豊かに表現
できる子どもの育成のために
〜第1学年での実践〜

井原市立青野小学校

教諭 藤居 啓子



1 はじめに

本校は、井原市教育委員会より平成26・27年度研究指定を受け「確かに読み取り、豊かに表現できる子どもの育成」をテーマとして研究を行った。文学的文章の楽しさやおもしろさを体感させ、読み取ったことを豊かに表現できる児童を育むことを目指した。本稿では、第1学年に行ったささやかな実践を紹介したい。

2 実践

(1) 授業の工夫と改善

教材「くじらぐも」では、言語活動「やくになりきっておんどくはつびょうをしよう」を単元のめあてとして設定し、次のような授業の工夫と改善を行った。

①確かに読み取るために

第一次では、学習全体の概要が大まかに理解できるようにした。例えば、デジタル教科書の動画を活用し、物語の粗筋を理解させた。

第二次では、大きな「くも

のくじら」を掲示し、児童が物語の世界に入って楽しめるような教室環境になるようにした。

読み取りでは、場面のつながりや物語全体の流れを意識させるようにした。そのために、教室に本文全体を掲示して前時までの振り返りができるようににした。そうした中で児童が音読を楽しみ、主体的に読みを進め、すべての児童が本文を暗唱できるまでになっていた。

また、場面ごとに登場人物の言葉や行動、様子にサイドラインを引いたり想像した言

葉を書き込んだりすることができ、ワークシートを活用した。文学的文章では、物語をイメージで示すことが読み取れたことを示す指標として考え、ワークシートに登場人物の様子や気持ちを書かせた。

さらに、言語活動を充実させるために、「発表の仕方」や「音読の工夫」「声のものさし」などを掲示して授業に役立てた。

語彙が少ない児童のために、左に示した「気持ちを表す言葉」を『国語コーナー』に掲示し、自分

きもちをあらわすことは	たのしい	おもしろい	かわいい	やさしい	きもちいい	すこい	だいすき	うれしい	きれい	かっこいい	がんばっているね	びっくら	どきどき	おどろいた	ふしぎだな	こまったな	こわい	かなしい	しんぱい	かわいそう



気持ちの宝箱



見直しぶどう

の気持ちに合った言葉を選んで書けるように支援した。また、児童が間違いやすい表記を「見直しぶどう」に掲示し、文を推敲しやすくなるように支援した。

②豊かに表現するために



ペープサートを教材提示装置に映し、動かしながら気持ちを発表した。

表現活動においては、読み取りを深めさせ、ペープサートや劇を通して表現力を高める活動を行った。

読み取りの中で感じたことを大切にさせるために、授業の活動の中で児童が感じた気持ちを表す言葉を「気持ちの宝箱」の中に入れて蓄積させた。

また、音読における工夫についても「工夫の宝箱」の中に貯めていき、表現力の高まりを自覚的に認知できるようにした。

さらに、また、発展的な学習として、学芸会で発表させられた。役になりきって台詞や動作を工夫し、青野小学校1・2年



「くじらぐも」の劇

であり、「くじらぐも」においても効果的であった。これらの活動により、登場人物の心情の変化をより豊かに表現できるようになった。

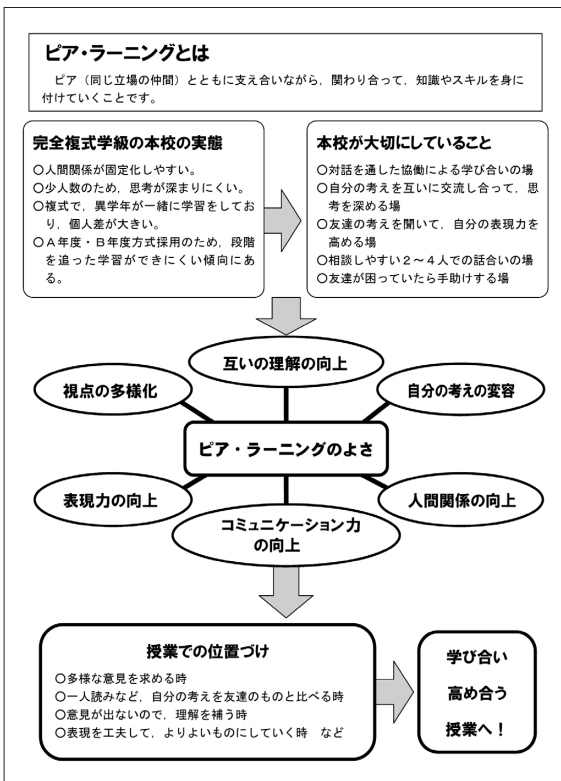
さらに、登場人物の気持ちをよく具体的にイメージできるように動作化を図った。低学年にとつて動作化は、発達段階にふさわしい活動

生の「くじらぐも」の劇を作り上げた。また、様子や登場人物の気持ちや音が聞こえるように、音読を一人一人が工夫して表現することができた。

③ピア・ラーニングでの学び合い
「くじらぐも」では、音読の工夫を考えると、ピア・ラーニングを約5分間行った。この学び合いでは、音読の工夫につ



ピア・ラーニングの様子



①音読・暗唱の取組
親しみやすい詩や短歌、俳句、古文、漢文などを音読・暗唱させることにより、我が国の伝統的な言語文化に慣れ親しめるようにした。音読や暗唱は、児童の集中力を高め、理解力や記憶力を向上させるなどの効果があると考えられる。

②成長日記の取組
「書く力」を日常化していくために「昨日からの自分の成長」を日記のテーマとし、帰りの会で書かせて、文章力の向上を図った。

④並行読書による読書活動の充実
第三次では、発展的な読みとして並行読書で読んできた「中川李枝子作品」のお気に入りの部分を付箋に書いて交流させた。その中から「そらいろのたね」を選び、劇にして音読発表をすることに決め、幼稚園の子どもたちを招待した。学習してきたことを他の作品でも生かした音読発表ができた。

3 おわりに

低学年の国語は、基礎基本となることを学習習慣として形成させることが大切であると考えられる。

具体的には、一定の量の文を暗唱させることやまとまった内容の文を書かせることである。

また、読み取りでは、「文を正確に読めるようにすること」「話の粗筋をつかむこと」「学び合いの様子や気持ちを考えること」などの方法を習得させ、読み取ったことを音読の工夫やペープサート、動作化、劇などで表現させることである。

さらに、他の作品に応用させ発展的な読みができるようにすることであると考える。

これから多くの文学的文章に出会う児童が、国語の学習で身に付けたことを生かして主体的に読んだり表現したりして楽しさを感じてほしいと思う。